

関 係 各 位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会担い手サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 4

大豆の適期収穫及び汚損粒軽減について

本年産の大豆は、梅雨明けが遅く播種の最盛期は7月中～下旬とやや遅れました。また、地域によっては8月の降雨が少なく生育初期に乾燥し、主茎長が短いほ場がみられます。一方、梅雨の合間に播種を実施したところや、適度に降雨があった地域では、主茎長がやや長く、倒伏しているほ場もみられます。

全体的に莢数は確保できており生育は順調ですが、莢の着く位置が平年よりかなり低くなっています。また、生育の悪い圃場では収穫が早まることも予想されます。

そこで、適期収穫及び収穫ロス・汚損粒の発生を軽減するよう以下の取り組みを行いましょう。

適期収穫

●コンバインによる収穫開始適期は、茎を手で折ると軽くポキッと折れる(分離できる)状態(茎水分 50%以下、子実水分 18%以下)で刈り取る。収穫は莢水分が低い(裂莢の恐れがある)ほ場を優先する。



分離できない(刈取不適)



分離できる(刈取適期)

収穫ロス・汚損粒の発生軽減へ

- 着莢位置が低いと収穫ロスが多くなり、泥をかみやすく、汚損粒が発生する。
- 着莢位置が低い、もしくは倒伏している大豆を収穫する際は、「リフターキット」を装着し、刈取部への取り込みを良くし、収穫ロスの軽減を図る。
- 茎水分の高い朝・夕や露のある時は、絶対に刈り取りをしない。
- 汚損粒の発生防止のため、青立ち株や大型雑草は、収穫前にはほ場から除去する。



写真 リフターキット

以上